

共通テーマ 「豊かな言語活動を通じた、小中連携の授業のあり方～英語による発信力の強化を目指して～」

<p>拠点校Ⅰ (天栄村立天栄中学校)</p>	<p>実践の具体的な内容</p>	<p>取組による成果</p>
	<ul style="list-style-type: none"> □ 必要な情報を選び、活用する力を伸ばすため、英語ならではの「見方・考え方」が働くような発展的で探究的な課題を各単元で設定した。 □ 小中で連携して、生徒と共有できるようなCAN-DOリストを作成し、何ができるようになるかを明確にした授業を展開した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 継続的な「学び合い」を通じて、より高次な内容について「思考・判断・表現」する場面を多く保証し、同時に「英語を学び続ける意欲」を喚起することができた。 ○ CAN-DOリストからの単元構想をもとに、トピックを工夫したり、指導の見通しを持って授業を構想したりすることができた。
<p>拠点校Ⅱ (天栄村立広戸小学校)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> □ 生活の中で英語表現に慣れ親しむため、校内に英語表現を使った表示や「English Day」を設定して全校生で英語に親しむ機会を設けた。 □ 児童の実態やCAN-DOリストからつけた力を明確にして言語活動を充実させ、英語を使った積極的なコミュニケーションを図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「目に入れ、耳に入れ、口に出させる」を具現化した環境整備の工夫により、児童も教師も自然に英語を使う場が広がった。 ○ CAN-DOリストを生かした振り返りカードの作成・活用により、何を学び、何ができるようになったかを教師も児童も明確に把握し、学びの価値付けを図れた。

共通テーマ 「豊かな言語活動を通した、小中連携の授業のあり方～英語による発信力の強化を目指して～」

協力校 (天栄村立大里小学校)	実践の具体的な内容	取組による成果
	<ul style="list-style-type: none"> □ 伝える力の向上に向け、即時に調べられる環境の整備に取り組んだ。 □ 苦手意識の克服に向けて、学習内容を繰り返し活用できる単元・課題の設定をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な既習事項を、「伝えるための英語表現」として活用できた。 ○ CAN-DOリストの活用により、到達目標を児童、教師で共有化が図られ、指導構想に役立てることができた。
協力校 (天栄村立牧本小学校)	実践の具体的な内容	取組による成果
	<ul style="list-style-type: none"> □ 自信をもってやり取りができるように、単元を通じて単文や語の指導時間を計画的に設定した。 □ CAN-DOリストをもとに単元計画を立て、学習の必然性を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎時間アルファベットジングルやチャンツに取り組むことで、単元後半には自信をもってやり取りができた。 ○ 必然性のある目的・場面・状況を工夫することで学習意欲が高まった。